

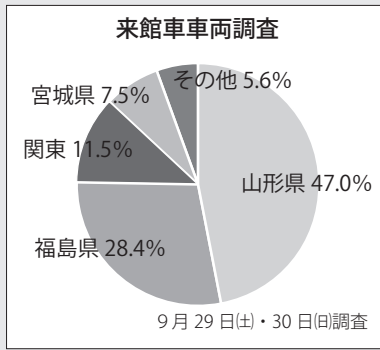


12月になり、道の駅米沢は初めての冬に入ります。

昨年11月4日に東北中央自動車道 福島～米沢間が開通して、早くも1年が経過しました。両都市間の所要時間が大幅に短縮されただけではなく、冬期間における栗子峠の運転の心配も軽減されたように思います。

どのような所から道の駅米沢に来館しているかを確認するため、開業から数回、車両調査を実施しました。この結果を見ても、東北中央自動車道の効果を実感できます。

いずれの調査でも県外の来館者の割合が予想以上に多く、ほぼ半数を占めています。開業当初は福島・関東方面の



来館者が3割程度でしたが、9月の調査では4割に増えました。さらに、福島県だけでなく、9月の調査では3割となり、両都市間の往来が盛んになっていきます。東北中央自動車道 福島～米沢間が無料区間であり、とても便利であることが皆さんに認知され、多くの人に利用されていることが分かります。

道の駅米沢は山形県南の玄関口として、多くのお客様の旅の休憩所となり、県内に周遊いただく拠点として役割を果たすため、さらに多くの交流が生まれるように引き続き邁進していきます。



Narinori Uesugi  
上杉齊憲 (1820 - 1889)



上杉博物館蔵

戊辰150年の最後の月となる今月、戊辰戦争時の米沢藩主上杉齊憲を取り上げます。

### 幕末の政局と米沢藩の軍制改革

エピソード1

上杉齊憲は、文政3年(1820)に第11代米沢藩主上杉齊定の長男として米沢城に生まれました。天保10年(1839)、父齊定の死去に伴い、20歳で家督を継ぎ、第12代藩主となります。西洋列強が江戸幕府に開国を迫り、幕藩体制の崩壊と明治維新へ向かう激動の時代でした。このような時代の中で齊憲は、嘉永3年(1850)以

### 幕末に西洋式の軍制改革に注力し、公武一和を目指した米沢藩主

降、西洋式の砲術を取り入れ、小銃製造や軍隊操練を開始するなど軍制改革に力を注ぎます。さらに文久2年(1862)には幕府の軍制改革を受け、火縄銃の原則廃止と西洋流の全面採用、下級藩士の西洋銃隊化、上級藩士部隊への大砲装備が決まり、米沢藩の軍団は西洋式軍隊に編成されていきました。また、齊憲は藩政にも尽力し、その施政は「鷹山公以来の善政」と賞され、幕府か

ら何度も褒賞を受けています。

エピソード2

### 文久3年の上洛と公武一和、戊辰戦争へ

文久3年(1862)、齊憲は米沢藩士を率いて、將軍徳川家茂の上洛にあわせ京都に登りました。京都警衛に務めるとともに、幕府と朝廷が一致協力して国難にあたる公武一和の実現を目指し、諸藩と連携して幕府と朝廷との仲介にあたりました。滞在中、孝明天皇の御前で行われた軍事訓練に参加し、30匁火縄銃と西洋式銃隊を披露しています。元治元年(1864)、齊憲は幕府より要職の政事総裁職の内命を受けます。しかし、幕政に関わることを危惧する家臣の意を汲み、齊憲はこれを辞退しました。その後は大政奉還・王政復古などを経て、幕府は崩壊、明治新政府が誕生しますが、旧幕府方と新政府の対立は深まり、戊辰戦争が勃発、齊憲や米沢藩もその当事者となっていきます。